



# AA日本ニューズレター

## No.192

\* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \*

### AA鄭州（ていしゅう）コンベンション：ソブライティへの鈍行列車

A A. Zhengzhou Convention: Slow Train to Sobriety Box459 (Vol.64, No.1 / Spring 2018)

隣国中国のAAの様子を知ることができる記事です。中国のAAと日本のAAとの交流はまだあまりないようですが、何らかの形で日本からも手助けができるのであればすばらしいと思います。岡崎直人（元A類常任理事・元WSM評議員）

\* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \*

2017年AA鄭州コンベンションが、中国中央部の河南省鄭州市において、2017年10月に3日間にわたって開催された。コンベンションは精神科病院である鄭州九番人民病院の5階大会議室で開かれた。場所柄、すべての窓は外が見えないように閉じられていた。しかし「全国から人々がやって来た」と企画者の一人、アレックス・Lは語る。「鈍行列車で24時間かけてきた人もいます」。

「それはそれほど珍しいことではありません。」アレックスは言い足す。「AAの無い町に住んでいる人々は、ミーティングに出るためだけに何百マイルも移動します。それは、彼らにとってどれ程アルコールクス・アノニマスが必要なのかを示しています。」

アレックスは中国本土に生まれ、10歳の時に家族と共に香港に引っ越した。12年間を米国で過ごし、大学に通い、ミネアポリスとシアトルで働いた。彼が自分の飲酒について心配を始めたのはシアトルにいた時であった。2006年に求職のために北京に引越したころに、彼の飲酒は助けが必要と感じるほど増加していた。2008年にカウンセラーの支援で彼は北京でAAを知った。思い返してみると、なんと彼は幸運だったのだらう。「中国の仲間の共同体は、私たちの知っているミーティング場の場所と日時のリストを備えています。そのリストには中国全土の約30か所のミーティング場が載せられていて、その中には外国人のための英語のミーティングも含まれています。北京には4か所、上海には2〜3か所です。それ以外の地方では、あったり、なかったりです。私はたまたま助けを求めるのに適切な場所にいたのです。」

ソーバーになって、アレックスは家業に就くために香港に戻ったが、彼は中国にはAAが早急に必要だという考えにとらわれた。中国には、英語のAAミーティングは長年あったが、2000年になるまで実際には紹介されなかった。その年、米国のアディクション専門家であるデビッド・パウエル博士が、アメリカ・カナダのGSOの支援を得て、4人の中国人医師をオブザーバーとしてミネアポリスの国際コンベンションに招待した。中国人に対してもこのプログラムは有効である

という確信のもとに、4人の医師はそれを彼らの国に持ち帰った。2000年7月25日、アルコールクス・アノニマスの最初の公式なミーティングが標準中国語によって開かれた。（ソブライティ17年目を迎える中国人メンバー第一号のC氏も、鄭州コンベンションに参加したことだらう）

スカイプを通してのミーティングは普及しているが、アレックスは、中国人が他のアルコールクスとの個人的な接触到に飢えていることを知っている。2015年に、G.Y氏という、ソーバーになった中国人アルコールクスとアレックスは、彼が企画を助けた香港のAAコンベンションで出会った。G.Y氏は彼に質問を一つした。「どうして、私たちはこのようなコンベンションを中国で開催できないのですか？」

「これは古くからあることです。」アレックスは言う。「二人の酔っぱらいが一緒になり、「中国社会もAAコンベンションから間違いなく恩恵を受けると思う」と言うのです。」

こうして、彼らは2016年に昆明（くんみん）コンベンションを企画し、50人の参加者があった。2017年の鄭州コンベンションの知らせがさらに広がることを求めて、アレックスは、香港で出会った回復者の米国人ジョン・B神父と接触し、鄭州に来てくれるかどうかと尋ねた。ジョン神父は賛同し、彼の2人のスポンサーのテリー・Mと彼の妻ドナを伴ってやって来た。テリーは1991年からソーバーであり、ドナはアラノンメンバーである。

「精神科病院でコンベンションが開催されたのは適切でした。」とテリーは話す。テリーの鄭州コンベンションでの経験は、彼に米国の初期のAAを思い起こさせた。「AA以前には、刑務所、精神科病院、死しかなかったのです。」精神科病院でAAコンベンションが開催されるというのは、中国人から見れば幸運な出来事だ、とアレックスは指摘する。「ホテルでの開催も計画しましたが、高額になると分かりました。昆明コンベンションに感銘を受けた二人の医師が、九番人民病院に招待してくれたのです。」そのため、準公的な「病院行事」となり、警察や報道に嗅ぎまわられずに済んだのである。（AAは時には、当局や一般の人からの疑いを引き起こす。アレックス

クスが言うには、中国では飲むのを断ることは、普通とは見なされないのである。「中国では、商談が昼から始まり、120プルーフ（60度数）の酒が振舞われます。顔から倒れてしまう人を見ても、誰も深刻には受け取りません。」

鄭州コンベンションには120人が参加した。アレックスの推測によると、30人はアラノン、12人は外国人滞在者とジョン神父、テリー、ドナのような米国からの訪問者であった。2日間にわたって、このコンベンションはA Aのコンベンションのやり方で開催された。開会セレモニーがあり、ミーティング～瞑想ミーティングやステップミーティング～があった。スポンサーシップや神の意志を理解することについてのパネルディスカッションもあった。回復を渴望する中国の人々を表現した、2つの特別な機会があった。「土曜日の朝に」テリーが語る。「アレックスが頼んできたのは、アラノンプログラムのために参加した人は私の妻のドナと一緒に1階に行きたい」ということだった。4時間たっても、彼女たちはまだドナと話をしていた。「夫は飲むのをやめず、A Aにも行きたがりません。どうしたらいいのでしょうか？」家族のメンバーたちは、ここにはわずかでも希望があると知って、長旅をしてきたのだ。

日曜日の午後からは伝統劇を上演した。（GSOへの依頼によって可能となった）。このいきさつはこうである。2017年7月、アレックスはモンゴルのウランバートルで開催されたアジア・オセアニア・サービスミーティング（AOSM）の香港からの（初めて中国語を話す）代議員であった。そこでアレックスは、GSO所長のグレッグ・TとGSOの国際担当スタッフのメアリー・Cと出会った。この出会いによって、メアリーはアレックスに伝統劇の台本を、コンベンションが始まる前に、中国語に翻訳するための十分な時間を取って送った。

「これはGSOができる支援の一例です。」アレックスは話す。「私たちがしばしば直面する問題は、伝統劇が示唆するように、自分自身がどうあるべきかということです。GSOから派遣された人たちとの交流によって、私たちはこのようなことに多くの経験をしました。私たちは、この劇を上演できるようになったのです。伝統を行動に変換しようとするのは私たちではなく、プログラムの最初期からA Aの経験なのです。部屋中がその劇を1時間にわたって観ていました。水を打ったように静かでした。最後にA Aでその出来事が起こったのはいつですか？」

この上演を観ていたテリーのような米国人にとっては、英語に翻訳し直す必要はなかった。「たとえどのような言葉であっても、伝統劇の描く人たちは、私たちがよく知っている人たちです。この劇によって、中国人が持っている伝統に対して挑戦が突き付けられました。部屋全体が明るく照らされました。全員が笑いました。私たちが同じことに取り組もうとしていることが分かりました。それは、その病院のアルコー

ル病棟の鉄格子越しに見ることのできるような多くのアルコールにメッセージを運ぶことなのです。」

中国には14億3千万人もの人々がいる。アレックスが推測するには、A Aでソーバーになった人たちは300～400人である。アルコールを助けるという使命を実現するためには、中国のA Aに助けが必要である。「標準中国語に翻訳された書籍があります。いつでもそれをさらに使うことができます。」アレックスは話す。「しかし、個人的に私が熱望するのは、単に生きている個人の回復の経験です。中国のA Aは本当に若いのです。私が思うに、最も必要な支援の領域は、中国を訪れる、さらに経験豊かなA Aメンバーです。20年、30年の経験の必要はありません。どれだけソーバーが長いかわはなく、どれだけプログラムによって生きていて、それによって変わったかなのです。そして中国のアルコールはそれを聞く必要があるのです。」

＝　＝　＝　＝　＝　＝　＝　＝　＝　＝

岡崎様、アメリカ・カナダニューズレターBOX459の翻訳をありがとうございました。日本は他の国のスポンサー活動をこの何年かほとんどしていないと言えます。サービスオフィスやゼネラルサービス構成の形成ができずに苦しんでいる中国・台湾・香港などに助けをする必要があると思います。WSM評議員 森田

## ■ 各地域より ■

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊

JSOから各地域の刑務所や保護観察所等、矯正関係施設268ヶ所にBOX-916をお送りしています。

その詳細は、北海道地域は24ヶ所、東北地域は21ヶ所、関東甲信越地域は75ヶ所、中部北陸地域は36ヶ所、関西地域は32ヶ所、中四国地域は37ヶ所、九州沖縄地域は43ヶ所です。

各地域から矯正関係施設への広報やメッセージについて、ご投稿いただくよう計画し、今号は関西、中四国、九州沖縄地域からご投稿いただきました。ありがとうございました。

補足：A Aのメッセージを運ぶ(メッセージ活動)とは：私たちA Aのメンバーは、今も苦しんでいるアルコールの人たちに、多くのアルコールがA Aのプログラムにより心身とも健康な生活の回復を果たしているということを、是非とも伝えたいと思っています。私たちは、そのことを「A Aのメッセージを運ぶ」(メッセージ活動)と呼んで、私たち自身の回復にとっても必要な、とても大切なこととして位置付けています。常任理事会発行『A A私たちにできること』より

## 関西地域より

### 矯正保護施設メッセージ活動のご報告

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊

#### 関西矯正施設委員会

関西地域の矯正保護施設メッセージ活動について簡単にご報告を致します。関西地域の矯正保護施設は30ヶ所を超えると聞いてお

りますが、現在のところ矯正施設委員会としてのメッセージ先はまだ非常に少ないのが現状です。

刑務所については定期的に訪問しているところが3ヶ所ありますが、その一部について簡単にご紹介します。

刑務所向けのメッセージ活動は2004年に始まっていますが、実際の訪問によるメッセージはその翌年に開始しました。矯正保護施設を対象とするメッセージ活動は以来徐々に活動に幅を拡げ、現在では関西地域の数ヶ所の施設に運ぶに至っています。また地域として現在までに5回のワークショップを開催してきました。

開始時点から継続して訪問している一つの施設(刑務所)の状況をかいつまんでお話することになります。

基本的に男性と女性を区分して実施しています。内容・方法はほぼ同じで、どちらもメッセージは登録制になっています。男性向けメッセージに女性のメンバー加わることは許可されています。

訪問回数は男性が6回、女性は年2回になっていましたが、最近はやや回数が増えています。

一昨年から所内のプログラムに変更があり、法務省作成テキストに基づいた12単元のうちの2回(「酒を飲まずに生活すること」と、「ミーティングの体験」という項目になっています)をAAのメッセージに充てていただいています。

毎回2〜4名のメンバーが参加し、1時間半の枠内で基本的には簡単なAA紹介と普段のテーマミーティング形式によって実際に近いものを体験していただいています。

所内からの参加者数には都度変更があり、年齢的にもばらつきはありますが、全体的に穏やかな雰囲気、自らの経験や思うところを語ることができているようです。テーマはやはり「ステップ1」を含んだものが多くなっています。

資料は、『ミーティング・ハンドブック』(A4版でルビつき)、『AA早分かり』、『こちらAA』、『AAにご用は』と「関西セントラルオフィス案内」を使用しています。現在の登録メンバーは男性15名、女性9名です。

そのほかの施設(更生保護施設、医療観察病棟)に対しても定期的な訪問を継続していますが、内容はできるだけ実際の姿をすこしでも経験していただくことを考え、どの施設向けのものも大差はありません。予算をとっていただいてAA書籍を公開書架に入れていただくなど、施設側の担当者の関心も高く、メッセージを運ぶ側の意欲と責任を強く感じています。如何せん、他地域も同様だと思いますが現状は平日の訪問が多く(一部日曜日のものもありますが)、メッセージの確保には苦労しています。

自分自身の「かつてどうだったか、何が起って、今どうなっているか」(特に起こったこと、現在の姿の)経験を率直に語ることを通して、少しでもAAのことを理解していただくことを願っています。

もちろん、「自分は一人のメンバーであってAAを代表するものではない」ことをはじめとする伝統の精神を常に意識しながら、より多くの方々にAAの普段着の姿を伝えることができればと考えています。

## 中四国地域より

### 中四国地域矯正保護施設フォーラムを開催しました

\* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \*

#### 四国地区 栗林グループ まい

中四国地域では島根あさひ社会復帰促進センターへ月2回、山口県更生保護施設へ年3回、香川県更生保護施設へ毎月、メッセージを運んでいます。また、高松刑務所で行われている「アルコール依存回復プログラム」には、平成28年度より複数回参加し、AAの説明や体験談を求められた時に話をさせていただいています。

最近では受刑者に渡せる資料も増え、昨年から図書館に書籍を置いていただけるようになり、所員の皆様との信頼関係が深まりつつあることを感じており、これは何より、AAメンバーの正直な話や、それを聞いた受講者に変化が見られること、これらの副産物と捉えています。

また、高知保護観察所では2年ほど前から、対象者が最初に参加するAAに、観察官も一緒になって参加して下さるようになりました。聞くところによると、所員様が他所へ転勤された場合でも同様に続けているというお話でした。ありがとうございます。感謝の念に堪えません。

= = = = = = = = = = = = = =

さて、今年の9月に香川県で「AA中四国地域矯正保護施設フォーラム」を開催しました。参加して下さった関係者は、約80名。四国で開催したAAイベントでは初めてではないかと思われるほどたくさんの方々にご参加いただきました。

その内訳も多岐に渡り、中には申し訳ないことに初めて聞く施設からのご参加もあり、全体を見ると半数以上の方々がAAのイベントに初めての参加された関係者のようでした。

フォーラムの内容は、AAからAAの説明や本人の体験談、モデルミーティングをご案内しました。お医者様からアルコール依存についてご講演をいただきました。ありがとうございました。

また、今回の主旨である矯正保護施設の関係者として、実際に問題飲酒者に関わった経験を多くお持ちの荒木龍彦氏(元A類常任理事・近畿更生保護委員会委員長)を始め、高松刑務所の教育専門官様や保護観察官様から、専門家から見たAAとその関わり等をお話してくださいました。会場の雰囲気から、専門家から専門家へのお話が大変に有効であることを、改めて実感することができました。

このようなフォーラムを開くことができたのも、これもひとえに、関係者の皆様からのご支援の賜物です。例えば、四国矯正管区の課長様は、四国地区にある矯正施設への訪問の橋渡しを本当に快く快諾をしてくださいましたし、四国地方更生保護委員会の皆様から四国内の矯正施設、保護観察所をご紹介くださったり、今回、様々な関係機関の皆様が、メーリングリストや研修会等で案内をして下さったとも聞いております。

こうしてフォーラムのご案内に伺った先のほとんどは、「AAって何?」からのご案内が必要でしたので、広報活動の一環として捉え、

この機会に丁寧に説明を心掛けました。皆様からのご支援がなければ、お会いできなかった方々ばかり。たくさんのご支援をいただき、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今回のフォーラムを通して、多くの関係機関、関係者の皆様が、アルコール依存症者に関わっておられること、その反面、まだまだAAを知らない方が多くいらっしゃることを、改めて実感しました。

同時に、積極的に関わろうと考えてくださっている方々の思いに触れることができ、刑務所でも、どこでも、苦しんでいる仲間AAのメッセージが届く、希望を持つことができました。

最後に、この本当に多くの関係機関に、どうやってメッセージを運ぶのか、それを継続するにはどうすれば良いのか、大きな課題をいただように思います。皆様、本当にありがとうございました。

## 九州沖縄地域より

\* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \*

### 沖縄地区 なはグループ ケンケン

沖縄県で行われる矯正保護施設へのメッセージ活動は、2年以上のソブリエティを持つ(飲まないで生きること)男性メンバーが条件です。沖縄県の場合、受刑者の殆どが県内出身者で刑期終了後も県内で生活するため、日常生活の中で出会う可能性が高くなります。女性メンバーが条件から外れているのは、女性メンバーに負担をかけるための配慮です。

沖縄県は飲酒運転検挙率が全国1位、お酒がらみの事犯が多数あります。私が参加し始めた7年程前は、AAのテーマミーティングの形式を取り、AAの活動を知ってもらう事が主だったと思います。

4年程前から、それまでの教育プログラムに、新たにアルコール依存症とはどういった病気なのか、どうすれば回復するのかを学ぶプログラムが加えられました。AAは本人の体験談を届けるために、12回ある授業の中の3回に参加しています。

私自身も過去には飲酒運転を繰り返していましたし、人とトラブルを起こしたことも度々ありました。メッセージに参加する度に、受刑者側に座っているのは自分の方だったかもしれないと思い、しっかりメッセージを届けられるように心掛けています。

そして、この12回の授業の最後に、「皆さんが刑期を無事終えて出所された後、お酒のせいで生きることが辛くなったり、居場所がないと思った時には、AAのことを思い出してください。そこには、お酒を止めた大勢の仲間が、いつでも、あなた達のことを待っています」とお伝えしています。

このような活動を続けていくうちに、ミーティング会場やOSM(オーペン・スピーカーズ・ミーティング)会場で、「あのときは、ありがとうございました」と声を掛けていただくことも増え、そんなとき、メッセージ活動に参加し続けて本当に良かったと思います。

九州沖縄地域の全体を見ると、7ヶ所の刑務所にメッセージを運んでいるとのことでした。今回は、沖縄地区の様子をレポートさせていただきました。これからも一人でも多くの苦しんでいる仲間メッセージを届けたいと思います。

## ■ 常任理事会 より ■

### ビッグブック個人の物語 原稿募集！

\* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \* - - - \*

#### 全国選出常任理事 出版担当 大迫



ビッグブック(書籍「アルコールリス・アノニマス」の通称)は1939年にアメリカで初版が発行されてから、今では世界180か国、70言語で翻訳発行され、何百万人ものアルコール依存症者(アルコールリク)が回復するのを助けた、まさにAAの基本テキストといえる書籍です。

日本では1979年に、日本語翻訳初版ハードカバー版(個人の物語つき)が発行され、2002年の改訂版ではさらに3篇の「個人の物語」が追加されました。このたびAA日本評議会の勧告により、2025年のビッグブック「個人の物語」改編改訂版の発行を目標に、「個人の物語」の原稿募集を開始いたします。

最後に、AAの創始者の一人、ビルの言葉を記します。

「ビッグブックに掲載されている個人の物語は、私たちが思っているよりもはるかに重要である。個人の物語の部は、私たちがAAの外の人々と出会うための不可欠な道具であり、またAAミーティングで仲間たちが話しているのをその場で聞くのに等しい読み物であり、さらには私たちの成果を展示するショーウィンドウでもあるのだ」

ビッグブック(ハードカバー版)表紙カバー「ビッグブック小史」より

#### 【応募概要】

内容: 「かつてどうで、何が起って、今(AAプログラムにより)どうなっているか」  
 字数: 4,000字～8,000字程度  
 締切: 2020年1月31日まで  
 応募先: bbkjin@gmail.com 又は郵送  
 ※詳細は募集チラシか JSO ホームページ  
 (常任理事会 ビッグブック再編委員会)



編集: ニューズレター編集委員会・発行: NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休